



## 塵芥収集車を安全に使用するため

## 定期点検を実施しましょう!!

昭和 62 年に労働省労働基準局から発出された通達（基発第 60 号）の『機械式ゴミ収集車に係る安全管理網』では、ゴミ収集車を使用してゴミ処理作業を行う業者は、定期自主点検等を実施し、その結果を記録して 3 年間保存し、また点検等の結果異常を認めた時には補修その他必要な措置を講じることになっています。

※道路運送車両法（第 47 条の 2）点検・（第 48 条）定期点検は使用者・運行する者に義務付けられています。（貨物自動車運送事業輸送安全規則：第 13 条点検整備）

### 毎日を安全・快適に、すごして頂くために

- ・一日のお仕事前には、必ず作業開始前（特に安全装置・機能確認）点検を行って下さい。
- ・点検は、毎月と 1 年毎の定期自主点検を行って下さい。  
尚、点検記録簿は 3 年間保存するよう通達（基発第 60 号）で定められています。
- ・作動油・フィルタは消耗品ですので定期的に交換して下さい。（各メーカー取扱説明書による）
- ・油圧力は毎年測定をする必要があります。（油圧調整はメーカー指定サービス工場へおまかせ下さい）
- ・毎日のお仕事が終わりましたら、必ず洗車をして下さい。（電子部品は洗車禁止：取扱説明書参照）
- ・車の調子がおかしい時は、直ぐに最寄りのメーカー指定サービス工場へ御連絡願います。

### 日々ダメージを受けている煽動部



### 《作動油・グリスアップ・定期交換部品等のメンテナンスを怠ると》

- ★各シリンダ・駆動部（ドライブシャフト・チェーン他）・積込装置には日々の収集作業で高い負荷が掛っております。
- ★油圧装置には精密部品である油圧ポンプ（プランジャー式・ギヤ式等）・シリンダ・電磁バルブ等が使用されており高い油圧力で作動油（オイル）が流れております。
- ★作動油・油圧ホース・汚水パッキン等は日々劣化が進んでまいります。  
定期的な部品交換とグリス給脂を怠ると故障の原因だけではなく、事故や災害に至るケースもあります。

プレートのピンボス周りの亀裂

プレート連結ボス部の異常摩耗

汚水パッキン劣化変形

作動油タンク内オイル汚れ



★作動油は汚れていませんか？直ぐに確認し交換を致しましょう。!!

作動油本来の性能（潤滑・冷却・洗浄・消泡作用）が損なわれるばかりか、機能低下や焼付き油漏れ等の原因になります。

汚れた作動油 → 新しい作動油

正しいメンテナンスで機械も体も健康体

# 定期的な点検と整備で 事故・故障を未然に防止!!

## \*給脂箇所 (参考例)

給脂説明図 (ダンプ式)

表示された矢印のグリスノズル部に必ず給脂を行って下さい。

各給脂箇所の番号と名称:

- 1: ホイールベアリング (左右) 3箇所
- 2: ダンプシリンダピストン部 2箇所
- 3: ダンプシリンダピストン部 2箇所
- 4: リフトシリンダ (左右) (カバード) 2箇所
- 5: リフトシリンダ (左右) (カバード) 2箇所
- 6: ショックアブソーバ (左右) 2箇所
- 7: ホットパイプ (左右) 2箇所
- 8: ホットパイプ (左右) (カバード) 2箇所
- 9: テールゲート (C/E) 2箇所
- 10: ボデーシリンダ (C/E) 2箇所
- 11: ロックメカニズム (左右) 2箇所

## \*点検時の注意と消耗品 (参考例)

**\*点検時には『安全棒』を左右セットし使用願います。**

**\*汚水パッキンは定期交換部品です。**

**\*点検時には『降下防止スイッチ』を使用願います。**

**\*作動油・フィルタは定期交換部品です。**

## \*オイルタンク・フィルタの構造 (参考例)

構造説明:

- エアーリザーブ
- バックシン
- リターンフィルタ
- オイルレベルゲージ
- サクシヨンストレーナ
- スプリング
- カートリッジフィルタ

作動油は:  
 ・降込み時→押込み完了位置  
 ・排出時→キャブ側の位置で定期的に全量交換してください。  
 ・作動油の粘度分類 ISO VG 32 (標準油: ISO VG 22)

カートリッジフィルタが目詰まりすると、作動油は逆止めを押し開けて → の方向にバイパスする。カートリッジフィルタの定期交換が必要。

## \*各部名称 (参考例)

5-1 この製品について

1-1 各部の名称

各部名称:

- スイッチパネル
- 油圧バルブ
- ボデー (リファューズボックス)
- スイングシリンダ
- P.1.0スイッチ
- テールゲート
- テールゲート安全棒
- テールゲート降下防止安全スイッチ
- 自動ロック (テールゲート)
- スライドカバー
- リフトプレート
- プレスシリンダ
- プレスプレート
- 緊急停止スイッチ
- 投入口テーブル
- ワイド式緊急停止スイッチ
- 側面停止ボタン
- 連結ブザー
- 押込機 (上昇)
- 押込機 (反転)
- 緊急停止スイッチ

## \*設定油圧力の点検 (参考例)

油圧の測定方法

プランクプラグ (G1/4)

バルブのプランクプラグを外し圧力計を取り付ける。

G1/4

Oリング

圧力計  
 メイン圧力設定は21MPaであるが、プレスCYLの閉じ込み圧力を測定する場合、35MPaの目盛のある圧力計を用意する。  
 注意: メイン圧力測定ポートでは、プレスシリンダの閉じ込み圧力は測定できない。

## \*点検記録表 (参考例)

廃芥車点検チェックシート (圧縮板式) 1/2

登録番号	点検の種類	6ヶ月	12ヶ月	氏名又は名称
車種	車種	○	○	お客様住所
シャシ番号	製造番号	○	○	車番管理番号
登録年月	年 月 日	○	○	点検実施場所
点検年月日	年 月 日	○	○	点検サービス工場
点検者氏名		○	○	

  

区分	点検項目	NO	点検内容	6ヶ月	12ヶ月	点検結果	補修
車体	駆動機	1	異音、ガタ、漏み、発熱、油洩れ等	○	○	○	
	動力伝達装置	2	異音、ガタ、漏み、発熱、油洩れ等	○	○	○	
	走行装置	3	異音、ガタ、漏み、発熱、油洩れ等	○	○	○	
	操縦装置	4	異音、ガタ、漏み、発熱、油洩れ等	○	○	○	
	制動装置	5	異音、ガタ、漏み、発熱、油洩れ等	○	○	○	
	油圧ポンプ	6	異音	○	○	○	
		7	油洩れ	○	○	○	
		8	取付けボルトの緩み	○	○	○	
	油圧シリンダ	9	ロッドの損傷、油洩れ	○	○	○	
		10	油洩れ	○	○	○	
11		取付け部の異常の有無	○	○	○		
12		タンク内の油質、汚れ (色)	○	○	○		
作動油	13	タンク内スレーナの清掃	○	○	○		
	14	オイルの交換	○	○	○		
ゴムホース	15	劣化等による外部の損傷の有無等	○	○	○		
	16	油洩れ、表面の劣化割れ等	○	○	○		
油圧パイプ継手	17	締付けの緩み	○	○	○		
	18	錆付けの緩み、油洩れ	○	○	○		
	19	配管クランプの緩み、他の部品等との接触等	○	○	○		
油圧	20	前記圧の確認	○	○	○		
	21	油洩れ	○	○	○		
油圧バルブ	22	取付けボルトの緩み	○	○	○		
	23	各部スイッチの作動の確認	○	○	○		
電気・コントロール	24	防炎ケーブルの損傷、取付けの緩み	○	○	○		
	25	接地不良	○	○	○		
	26	カム取付けボルトの緩み	○	○	○		
	27	カム調整不良による外部の損傷の有無等	○	○	○		
	28	ブレーキマスターの緩み	○	○	○		
	29	ブレーキマスターの調整	○	○	○		
	30	カム調整不良による外部の損傷の有無等	○	○	○		
	31	バックドロップ作動	○	○	○		
	32	作動位置確認	○	○	○		
	33	カム調整不良による外部の損傷の有無等	○	○	○		

**純正・指定品 厳守**

**年次検査・点検時には必ず作動油の定期交換をしましょう。**

年次検査・点検 [済]

次回は 20 年 月

相当工場 NO

\*点検整備・部品交換は専門的な技術と設備のある各メーカー指定サービス工場でお受けいたします。